

パートナーイベント

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2025(第22回)

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2025 SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2025

会 期：2025年7月18日(金)～26日(土)

会 場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール／多目的ホールほか(埼玉県川口市)

主 催：埼玉県／川口市／川口商工会議所／SKIPシティ国際映画祭実行委員会

後 援：総務省／外務省／経済産業省／文化庁／(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(公財)ユニジャパン／(一社)外国映画輸入配給協会／(公社)映像文化製作者連盟／(一社)日本映画テレビ技術協会／
(一社)日本映画テレビプロデューサー協会／(協組)日本映画監督協会／(協組)日本映画撮影監督協会／
(協組)日本映画製作者協会／全国興行生活衛生同業組合連合会／生活衛生同業組合埼玉県映画協会／
(一財)デジタルコンテンツ協会／(特非)映像産業振興機構／NHK／エフエムナックファイブ／埼玉新聞社／
駐日イタリア大使館／ポーランド広報文化センター／駐日アルバニア共和国大使館／オランダ王国大使館

対 象：映画製作者、映画ファン、一般県民・市民、デジタルネイティブ世代

公式サイト URL：https://www.skipcity-dcf.jp/

総来場者数(参加数)：11,192人

出展参加国と地域：日本、ポーランド、ジョージア、オランダ、アルバニア、イタリア、ルクセンブルク、カナダ、フランス、アメリカ

■開催内容

「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2025」は、デジタルシネマの普及と若手映像クリエイターの発掘・育成を目的として開催された第22回目の映画祭である。

埼玉県川口市のSKIPシティを拠点に、9日間にわたりコンペティション上映、特集上映、企画展、関連イベントなどを実施した。

中核となるコンペティション部門では、国内から応募された271作品の中から厳選された13作品(長編・短編)を上映し、審査員による審査および観客投票を経て各賞を授与した。最優秀作品賞には、茂木毅流・長澤太一共同監督のアニメーション作品『水底のミメシス』が選出された。また、若手監督への支援として、SKIPシティアワード受賞者には次回作制作のための施設・機材利用権が提供されるなど、クリエイター・ファーストの姿勢を貫いている。

総来場者数は11,192人を記録し、昨年対比158.8%と大幅な増加を達成した。これは、上映プログラムの充実に加え、後述する体験型展示や関連イベントが多くの来場者を惹きつけた結果である。

■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回の映画祭では、急速に進化する映像技術と視聴環境の変化を捉えた意欲的な企画を多数展開した。

第一に、スマートフォンの普及に対応した「縦型映画シアター」の新設である。会場に巨大な縦型スクリーンを設置し、上田慎一郎監督作品やTikTok映画祭受賞作などを上映。デジタルネイティブ世代に親和性の高い新しい映像体験を提供し、連日多くの観客で賑わった。

第二に、生成AI技術に焦点を当てた特集「AI映画の現在」を実施した。全編AIで生成された短編映画『ラストドリーム』等の上映に加え、制作過程や著作権等の課題を議論するトークイベントを開催し、映画制作におけるAIの可能性と課題を提示した。

第三に、企画展「デジタルネイティブが見る映像のカたち」を開催し、VRドキュメンタリー、XR映画、8K映像、AIによるインタラクティブコンテンツなど、最先端技術を用いた多様な映像表現を紹介した。

これらの取り組みにより、本映画祭は単なる作品鑑賞の場にとどまらず、映像の未来を「体験」し「考察」する場として機能し、幅広い層の集客に成功した。



オープニングセレモニー



縦型スクリーン



企画展の体験の様子



AI映画の現在のトークショーの様子



AI映画の現在終了後のホールロビー



表彰式